

山崎高等学校 同窓会便り 第50号

山崎高等学校に縁のある、「ひと・こと・もの」をつなぐ年会誌



ごあいさつ

山崎高等学校同窓会

会長 本條 潔

(高16回生)



会員の皆様におかれましてはご健勝で益々のご活躍のことと拝察いたします。

本年六月開催の理事会において、秋田会長の後任として任命いただきました、山崎高校十六回生の本條潔です。どうぞよろしくお願いいたします。

副会長には、秋田前会長の「若返りを図ろう」という方針に従いまして、宇野正憲氏（十七回生・留任）と、安井唯善氏（三十回生・新任）に就任していただきました。誠に心強い限りです。

さて、「山崎高校同窓会便り」は今回五十号という記念すべき発刊となりました。これを機に「同窓会便り」の名称を募集したいと思えます。本号に詳しく募集要項を記載しておりますので、沢山の応募を寄せていただきますようお願い申し上げます。

山高同窓会は、三十数年前に東京支部が結成され、現在も会員の交流が活発に行われています。さらに来年早々には、阪神支部が産声を上げます。会員の約半数を占める女性や若い世代の方たちも奮ってご出席下さいますよう、切にお願ひ申し上げます。

今、「公立高校の学区再編成」をめ

ぐつて、西播磨では姫路・福崎学区と、播磨西学区の統合が計画されています。これに伴い高校受験の選択肢が増えるという利点がある一方、成績上位者の他学区への流出という危惧も否めません。

我が山崎高校の生徒たちは皆元気で活発です。勉学に励み、部活動も盛んです。この有望な生徒たちを、実業を担う人材に育てることが我々同窓会員の使命であると心得ます。

今年は創立一〇五周年を迎えます。皆様のご支援を得て、百周年を記念して建設された同窓会館に未だお越しいただいていない方々、ぜひこれを機に足を運んでいただきたいと思えます。

伝統ある山崎高校が、益々活性化しますように、同窓会の皆様のご理解とご協力をお願いして、会長就任のご挨拶と致します。

感謝

校長 宮本 茂

『山崎高等学校同窓会便り』が本年度で記念すべき第五十号発行に至りましたこと、同窓会員の皆様のひとかたならぬご理解とご協力の賜と心より感謝申し上げます。

三年前の着任時、前会長の秋田建三氏とお会いした際に、「学校が豊かな学びの場となり、生徒の学習意欲を高めて欲しい」旨のことを言われましたが、創立百年を超える学校の同窓会長さんの言葉には威厳があった。プレッシャーよりも期待をしていたに違いない。ところが何よりも嬉しく心強さとやりがいを感じ、改めて襟を正す思い

でした。母校への熱い思いは本年度からの本條会長へと引継がれ頼もしく有難く思っています。

誠心誠意、皆さんの期待に応えるために、教職員一丸となって教育環境や教育活動の改善改良を重ね、様々な工夫を凝らし力を注いできました。専門学科と普通科を併せ持つ本校の教育の特色の一つに、各科が両輪となり各々の魅力を十分に発揮しながら前進していく点があります。また、社会へと目を向け、笑顔・感謝・地域愛等々、こころ豊かに成長し生きる力を見出すことができるよう新しい事に

もチャレンジしてきました。

お陰様で三年目を迎えた「山高街の駅」、県下の学校で初めて設置ができた「石窯」、八十人が学ぶことができた電子機器を備えた「大講義室」、させる勉強から「する勉強」になるよう職員室前に机・椅子・スタンドを設置、丸太の加工・仕上用機材の設置等々、個性が輝き学ぶ心を揺り動かす山高ならではの取り組みができたことを嬉しく思います。

皆様のご健勝をお祈り致しますとともに今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



ようこそ「同窓会だより」

進化の中で

山崎高等学校

教頭 野谷るり子

(高28回生)

同窓会員の皆様、日頃から本校に限りないご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

各学年七クラスがそれぞれよくまとまり、今年度の一年生は二百八十名で定員を満たし、順調なスタートを切りました。開校から三年目を迎えた「山高街の駅」は活気に溢れ、平成二十四年三月に完成した石窯は課題研究の授業や地域の保育園・小学校との交流に役立っています。宮本校長の新しいアイディアをもとに、日々進化する山高を感じています。

その中で、おそらく一世紀を経てもなお、「変わらない山高生らしさ」が確かに息づいています。六月の文化発表会、合唱のステージで指揮に合わせて一心に歌う生徒達の姿、真剣な目。鳥肌が立つような、思いのこもった歌声。

平成十九年秋の百周年記念式典の最後を飾った、全校生徒による合同合唱を思い出しました。「全員の記憶に残る式典を目指す」目的



で、当時総務担当であった自らが会議で提案しました。「難しいけれどもおもしろそうだし、やってみよう。協力しますよ」という先生方の声に背中を押され、九百五名全員が四パートに分かれ、昼休みや放課後の僅かな時間を利用し、練習が始まりました。秋の海外修学旅行をはさんで、なかなか練習が進まず、「全校生徒による合唱は無理かも知れない」と、不安になった時期もありましたが、生徒達が同じパートの中で教え合ったり、学年を越えて先生方が練習方法を工夫し合ったりし、一つの目的に向かい、動き始めました。初めての合同練習の日、美しいハーモニーとなつて大地讃頌の歌声が流れた時の感動は忘れられません。式典当日の壮大な合唱を覚えていただいている方も多いと思います。

飾らない純朴さと素直さ、そして一所懸命さを備えた山高生には、今も昔も限らない可能性を感じます。その可能性を信じて育て、大きく花開かせるのが私たち教職員の使命です。私たちがその責任を自覚し、お互い協力し、目標に向かって一つになることで、一見不可能に見えることも可能になります。リーダーシップとフォロアーシップをとともに大切にしながら、母校のさらなる成長のために全力で邁進して参ります。

今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

本を忘れず

副会長

安井唯善

(高30回生)



山崎高校を卒業し、早、三十五年が経ちました。その間、山崎を

離れている時期もありましたが、二十八歳の時に帰郷し、書店業を継ぎました。

現在五十二歳となり自身の年齢に頭がついていかない今日この頃です。

この度、理事会総会にて同窓会副会長との指名をいただきました。本條会長、宇野副会長と協力して任を務めていく所存でございます。

山崎高校は現在、少子化、学区編成等、様々な影響が及び、随分と様変わりをしていく感じがいたします。しかし、宮本校長先生の指揮の下、「山高街の駅」、「夢叶う山高」の横断幕をはじめ、様々の取組に対し敬意と期待を持っております。

また、今年度も野谷教頭先生をはじめ安達、梶浦、中藤、田村、各先生の本校卒業の先生方が在職されており大変心強く思っています。地域の核となる山崎高校発展の為、各分野、各地域にて活躍の同窓生皆様のお力添えを切に願っております。

地元に住居する者は、力を合わせお世話をさせていただきます。よろしくお願い致します。

シリーズ

「懐かしき我が恩師」

自靖自献

内藤 格



現在の内藤格先生
(東播磨高等学校にて)

先日、たいへん懐かしい声を聞きました。二人の教え子(四十三回生)から、同窓会便りの原稿依頼でした。私でいいの(?)と思いましたが、ありがたくお受けさせていただきました。

山崎高校には七年間お世話になりました。四十三回生、四十六回生を担当し、四十七回生の学年担当だったと思います。夜遅くまで学級通信を作ったり、数学の問題を作ったりしていました。三十代の元気な頃で、睡眠時間が短くて

も全く大丈夫だったことを覚えています。五十代半ばとなった今ではとても考えられません。

私は、学ぶことの目的は「学ぶことで、自己の主体性・自主性を高め磨き、それによって発達する自己を通じて、世のため、人のために尽くすこと」と考えています。言い換えると、内面的には人間性を高め、またそれを外に発しては、何らかの意味において、世のため人のために自己を献ずるということです。教師になつてからずっと、

このことを四字熟語で言い表せないか考えていました。

最近、ある本を読んでいて、「これや!」と思つたのが、「自靖自献」という四字熟語です。「自ら靖んじ、自らを献ずる」ということです。

「学ぶ」を「仕事」や「会社」に置き換えて、「何のために仕事をするのか、何のために会社はあるのか」と考えてみると、よりわかり易いかもしれません。仕事は生活の糧を得るだけのものでは淋しい。仕事や会社は「自靖自献」のためにあるのです。仕事の大切なことは、それが生活の手段であるということだけでなく、その仕事を通じて何らかの意味において、人のためになるということです。

私が勤務していた頃の生徒はアラフォー(失礼?)になり、最も充実しているときだと思います。今一度、「自靖自献」を意識して日々の生活を送ってください。また一つ世界が変わることでしょう。

山崎高等学校

人彩

第23回生 前野佐和子

「格子戸の家並み続く酒の町」

ここ西町の酒屋に嫁いで三十余年。山高時代、日々自転車通学したこの酒蔵通りを今日も山高生たちが通り過ぎます。賑やかに部活の話でしょうか、試験日ともなると暗記メモ片手に真剣な顔つきの生徒達。昔と変わらぬ通学路の光景に懐かしさを覚える私です。

さて、その山高で四年前、生活創造科より文化祭での出展依頼を受ける機会がありました。郷土の歴史に触れ、地域の生活文化を紹介する展示で、我家に残る箱膳や行器、商売道具に昔の書物などを出品。展示に向いた時、女生徒

たちの手作り茶室で抹茶を一服いただきました。一期一会の心温まる接待に、地域とのふれあい教育の意義を感じたひと時でした。

最近では、課外授業やオープンスクールに留まらず、地域の人々と生徒が中心となって企画運営する行事があちこちで見受けられます。ここ山崎でも商店街の空店舗を利用

して開設された「山高街の駅」は地域に根差した実践教育の場となり、月一回の開店を心待ちにされる方も増え、商店街の憩いの場としても定着しつつあります。今後も中央商店街の再生、活性化の拠点として継続され、山高生のパワーあふれる熱気で、地域の人の出会い、語らいの場づくりを大切に頑張つて欲しいと願います。

江戸時代、山崎藩の城下町として栄えたここ町内の、築百七十年の我家でも県指定の「歴史的景観形成重要建造物」の一角を活かして町家カフェ「さんしょう」さんしょう（三笑）を開業しています。数年前「山崎ウォークキング&ウォッチング」で期間限定の喫茶を開店、癒しと寛ぎの空間が好評で常設の要望が多くあり、これを機にお菓子づくりの大好きな山高家政科卒

の三女がカフェ店を切り盛りしてくるようになったのです。

レトロな雰囲気の中、情緒の薫りをお茶と共に楽しんでいただきたいと、酒粕シフォンケーキや甘酒プリンなど酒屋ならではの手作りメニューを次々と考案しています。また、ギャラリーでは地元芸家の作品を展示したり、時には地元で活動する音楽家達のコンサートも開催。店内も昔のままの格子戸や天窓、和だんすなど、どこか懐かしい品々が、若い娘たちのセンスで見直され今に活かされる様子は「山高街の駅」開設の精神にも通じるものがあるように感じます。

ここ山崎は千年藤、花菖蒲園、もみじ山など色彩豊かな自然に恵まれ、今奈良市でもそれらを活かした観光立国を目指している様子。山高通学路でもあるこの場所で、歴史を刻む町並み保存や商店街のにぎわい再生を願いつつ、ここ「さんしょう」でも懐かしい記憶の中で、ほっこり過ごしていただける場の提供を心がけています。帰省の折はどうぞ気軽にお立ち寄りください。山高時代に思いを馳せながら…



天窓、八角窓、節句幟



レトロな和の空間



「さんしょう」外観

私事ですが：

社会福祉法人 多摩済生病院

第41回生 石川 弘晃

（旧姓・取越）

平成元年に山崎高等学校を卒業し、今年で二十四年となります。現在は東京で精神科医として働いておりますが、医者になるまで多少の回り道をしています。この場をお借りし、今日は高校から現在までの私を紹介してみたいと思います。

高校時代を一言で言うならば受験勉強でした。「勉強せな、せな」といつも思っていたのですが、気持ちほど勉強がはかどることはなく、焦りばかりの毎日だったと思います。ユニークな友人達に囲まれ、今から思うと信じられないような馬鹿なことばかりやってましたが、心のどこかでは受験勉強のことが離れず「こんなことしとる

場合やない」と焦る、そんな毎日でした。

高校卒業後、一浪を経て京都大学農学部に進学しました。京大時代を一言で言うならば塾講師です。家計に余裕がなく生計を自分で立てなければならなかったこともあり、入学当初からアルバイト三昧の生活となりました。いろんなアルバイトをしました。が、「やり込んだ」という体験が大学受験くらいしかないため、結局は塾講師のバイトがメインとなりました。学業そつちのけで働くうちに、あつという間に四年経ち、当然卒業できず留年です。しかし塾講師として少しは自信をつけていたことで危機感はなく、時々「まづいな」と思いながらも、卒業もせず「なんとかなるわ」的な感じで過ごしていました。そんな中、医者を目指すきっかけとなったのはオフロードバイクでの骨折事故です。仕事に穴を空けたことでたちまち無収入となり、アルバイトで生計を立てていくことの不安定さを実感しました。その為「地に足の着いた」人生を送りたいと思い、一念発起し医学部を受験しました。



塾講師としての長年の経験が幸いし、二十八歳の春に愛媛大学の医学部に入學しました。医学部での勉強は非常にハードで授業、レポート、試験、実習などに追い立

てられる毎日でした。もちろん学費や生活費は自分で稼がなければならなかったため、平日は学生として愛媛で過ごし、週末は大阪で塾講師として働き続けました。「金曜日の夜にフェリーで大阪へ向かい、日曜日の夜大阪を立ち朝愛媛に着くとそのまま大学へ」という生活を六年間おくりましたが、周りの人に恵まれたお陰でなんとか無事卒業でき医師となることができました。

精神科に進んだ理由は、受験生の中にうつ病などの気分障害や注意欠陥多動性障害などの発達障害の子たちが多く含まれていることを知り、専門的な対応ができればと考えたからです。その為二年間の初期研修を終えた後は、大学同期の勧めで沖縄の精神病院に勤務いたしました。沖縄生活は素晴らしく本当に永住まで考えましたが、私事にて四年前に上京し現在にいたっております。

がんばってます
新・社会人

高校生活を振り返りつつ、
フレッシュな新生活を過ごす。

JA 兵庫西勤務

第64回生 田端璃菜子さん

た文化発表会や体育祭のクラス旗を作るのに放課後遅くまで残った事、友人達とのたわいもない会話など、どれも深くは思い出せなくても楽しかったと感じる思い出です。

山崎高校を卒業し、JA兵庫西に入組してあつという間の半年がたちました。入組してからの月日は今までの生活とは違い一日一日がとても早く感じられます。毎日、通勤途中に山高生を見かけては、懐かしさを感じると共に高校生に戻りたいという思いで胸がいっぱいになります。高校生の時に友達と「早く、卒業したいな」と笑いながら話しをしていたのが信じられないくらいです。今、山高に入組してから三年間を思い返すと楽しかった思い出しかでてきません。クラスみんなで一生懸命歌つ

私は今社会人一年生として毎日慣れない環境の中がんばっています。正直に言う、まだ半年もたっていないのに「やめたい」と家族や友人に相談したこともありますし、何度か泣いてしまった事もあります。また、学生をしている友人達をとてもうらやましく感じたこともあります。しかし、自分で選んだ道であり、誰もが歩んでいく道だから今は我慢と自分に言いにかけて日々を過ごしています。対称的に、社会人になって良かったなと感じるときもあります。初めてのお給料を頂いたときや同期や先輩、上司との出会いはJA兵庫西に入組して良かったとても感じます。特に出会いについては、私はとても恵まれているなと感じます。やさしい先輩や上司の方を支えられて仕事をしているのでもやりやすいです。また同期三十八人との出会いは、今後JAで働いていく上でとても大切なもの

になったと思います。これから、自分がどこまでできるかわからないし今後どうなるのかとても不安ですが、山高の楽しかった思い出や友人の事を思い出しががんばっていきたいと思います。

最後になりましたが、山高生のみなさんに卒業生としてアドバイスを送りたいと思います。今進路について悩まれていたら焦らずゆっくり考えて欲しいなと思います。自分に向いている道などはわからないかと思いますが納得がいくまで悩む方が良いと思います。また一番に私が言いたいのは高校生活を楽しんで下さいという事です。アドバイスなどできる立場ではないですがこの二つは卒業生として在校生の方々に言いたいなと思ったことでした。

私は山高に入組して良かったです。ありがとうございます。



田端璃菜子さん

がんばってます
大学生

大学生としての暮らしと、
あらためて感じる高校時代。

兵庫県立大学

第64回生 平田嵐士さん

私が山崎高校を卒業し、大学に通い始めてから、はや半年が経ちました。今、振り返ると山崎高校で過ごした三年間は本当に楽しく、自分にとって意味のある時間でした。朝や放課後まで集まってみんなで歌の練習をして頑張った文化発表会、沖繩へ行きたくさんの人や自然に触れた修学旅行、そして友達と何気なく過ごした普段の日常生活でさえ、とても楽しかった時間だったと思います。また、仲間と共に汗を流し頑張った部活動は何より私を成長させてくれたと思います。しんどい練習ばかり

平田嵐士さん（右列下から二番目）



で嫌になることもありましたが、礼儀作法など監督からはたくさん、のことを学ばせてもらいました。

大学では、授業の仕方や内容など高校との大きな違いに戸惑うこともあり、一つの授業が九十分であったり、卒業に必要な単位数を自分で考えながら授業を選択したりするなどの違いがありました。でも、将来先生になって山崎高校に戻って来て、自分が先生方にお世話になった様に自分も先生方になって今度は母校に恩返しができる様に日々一つ一つの講義を頑張っています。また、高校と違い大学には他府県の人とも触れ合う

ことがあり、その中で言葉や生活などの違いに驚くことも多々あります。みんなそれぞれの思いや夢を持って大学にきて勉強に励んでいるのでそれも良い刺激になります。

私は大学まで自宅から通っていますが、下宿している人が多いです。その人たちの話を聞くと勉強もしなければいけない中で自分で料理や洗濯、掃除をするのはとても大変で親のありがたさを感じるというのをよく耳にします。私は自宅通いでまだまだ親に迷惑をかけているので、支えてもらっていることに感謝しながらこれから大学生活をおくっていきたいです。

最後に在校生のみなさん、自分の進路実現のために後に悔いが残らない様に今一生懸命頑張ってください。高校での三年間はあっという間に過ぎてしまいます。しんどい時、苦しい時には友達と励まし合い、協力し合いながら自分にとって有意義な高校生活を送って下さい。



駄菓子屋 「志水」

一宮町曲里

第52回生

吉岡 正樹

(奈良県在住)

行かなくなったのはいつ頃からか。ふと考えこんでしまうほど物心つかぬうちから足繁く通っていた志水。因幡街道、安積橋から南へ百メートルほどのところにある駄菓子屋さんだ。

どこでもいい。近所の駄菓子屋を声に出して言ってみて欲しい。懐かしい記憶とともに口の中に何とも言えぬ高揚感を覚えたいだろうか。「しみず」という音がもたらす、甘くて、ときにしょっぱい味覚の記憶。薄暗くて、少し冷んやりとした店内。隣には農作業を終えたおばあちゃんなんかがいるかもしれない。手にはオロナミンC。三和土に直接置かれた業務用の陳列棚の上には色とりどりのビニール袋。ときどき息を吐く冷蔵庫。外を不釣り合いなスピードで走る車。

志水までを歩く。甥を連れて。距離にして五十メートル。楽しそうに指折り数える甥を横目に、胸の高鳴りを記憶の奥の方で微かに感じた。アフリカから帰国して間もなかった僕は、甥が二百円ぴったりに買い物をしたことに驚きと喜びを隠せなかった。日本の教育はすごいなと誇らしくなった。

近くの駄菓子屋さんを訪ねる。小さな子どもを連れて。ありふれた日常の中にも新しい出来事、感覚に出会える体験が待っているかもしれない。

全国各地に広がっています、 同窓生の輪

東北 & 九州編

全国各地に広がる同窓生の輪、今回は東北地方と九州地方にお住まいの同窓生の声をご紹介します。

Sさん（青森県・青森市在住）

本州最北端、豊かな自然に恵まれた青森市。南東部の八甲田山一帯は十和田八幡平国立公園に指定されており、周辺には浅虫温泉などもあります。そのほかにも、国の重要無形民俗文化財に指定された「青森ねぶた祭」は、毎年300万人の観光客を集めます。初めは津軽弁に戸惑うこともあったSさんですが、青森市の自然や見どころなど紹介していただきました。

青森市はどんなところですか、また遠くへ来たなと実感されることはありますか。

冬は雪が多く、そのために冬休みが長く夏休みが短めです。最初は津軽弁がわからなくて関西弁がなつかしかったです。

車で実家まで帰ったら、どこへも立ち寄らないのに24時間かかりました。

おすすめのスポットを教えてください。

弘前城の桜の美しさ、りんごがたわわに実った頃のアップルロードは最高です。そのほかにも三内丸山遺跡など見どころも多いです。

東北地方ということで、新鮮な魚介類など多いと思いますが…。

じゃっば汁（鱈のアラ汁）、ほたての刺身と貝焼き、大間のまぐろ、とにかく海鮮料理は絶品です。おでんも少し変わっていて、「青森おでん」はしょうがみそで食べるのが特徴です。

全国と同級生にひとこと。

同窓会にはなかなか参加できませんが、そのうち是非参加したいと思います。皆様元気でいて下さい。

青森市



桜の弘前城



紅葉の八甲田山

第15回生 春名 常志 さん (福岡県・大牟田市在住)

大牟田市は、九州の中部に位置する人口12万人の都市です。かつて石炭資源で栄えた歴史を持ち、市内の三井三池宮原坑跡などを近代化産業遺産として世界遺産へ登録しようとする活動も展開されています。

また2007年フォーブス誌で「世界の最も美しい都市トップ25位」にも選定されている美しい街で、毎年夏に開催される夏祭り(大蛇山)は一大イベントです。

春名さんは、大牟田市に移住されて36年、大牟田市のおすすめのスポットや高校時代の思い出をお伺いしました。

大牟田市



夏祭り(大蛇山)



三池炭鉱 宮原坑跡



大牟田市はどんな所ですか。

周辺に温泉が多く、家族で気軽に温泉を楽しむことができます。有明海を隔てて雲仙の普賢岳が真正面に見える景色は絶景ポイントです。

少し足を延ばせば、阿蘇・九重高原を横断する「山並みハイウエー」があり、モンゴルの草原を連想させる風景が広がっています。



遠くへ来たなと実感されることはありますか。

故郷の千種町までは車で約650km、さすがに遠くへ来たなと実感します。



高校時代の思い出は？

休日には最上山によく登っていました。3年の担任、高木先生(日本史担当)には、進路指導でも親身になってアドバイスしていただきました。



全国の同窓生にひとこと。

住めば都、すっかり九州人になりました。健康にも恵まれ、今はささやかな社会貢献(学校支援活動)と自分の趣味を楽しんでいます。『一生感動 一生青春』

* 写真提供等ご協力いただきました(敬称略)

- 青森市観光情報アプティネット
- 大牟田市商業観光課

今回お忙しい中ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

information

少しでも多くの同窓会が開催されると嬉しく思います

回生の同窓会への助成金

回生全体の同窓会を開催される際は、2万円の助成をします。開催された同窓会の様子の記事(400字程度)に、写真を添えて、幹事の方は事務局までご連絡ください。

また、「開催予定の日時の連絡」に同窓会便りの紙面をご利用いただいても結構です。

新役員名簿

会長	昭39	本條 潔
副会長	昭40	宇野 正憲
副会長	昭53	安井 唯善
常任理事・会計監査	昭40	中井由紀子
常任理事・会計監査	昭59	志水 昭彦
常任理事	昭35	千本 英毅
	昭35	藤村 昇三
	昭37	橋本 鉄也
	昭37	上山まさ彥
	昭39	杉本 健三
	昭39	吉岡 政純
	昭41	中川 俊夫
	昭41	三渡 圭介
	昭42	稲田 展久
	昭42	宗接 和人
	昭42	下川健次郎
	昭45	秋久 澄子
	昭45	西幹 博
	昭46	栗山 章
	昭46	谷口 文男
	昭48	福山 信彦
	昭51	小寺 一成
	昭52	稲用美恵子
	昭54	松本 貞人
	昭54	田村 純司
	昭55	秋田 博史
	昭55	中津 政敏
	昭60	妹尾 昌昭
	昭61	清水 航一
	平4	富士川智美
	平8	田中 一成

本條 潔

新会長誕生

本年度の理事会・総会が六月十六日、同窓会会館で開催され、秋田連三会長（高三十三年卒）の退任により、新会長に本條潔（高三十九年卒）副会長が選出されました。宇野正憲（高四十年卒）副会長は留任、新たに副会長には安井唯善（高五十三年卒）さんが選出されました。常任理事（次の表）・回生理事（各学年若干名）が新会長より委嘱されました。

山崎高校同窓会阪神支部（仮称）
設立総会について

前号の「山崎高等学校同窓会便り」でもお知らせしましたが、京阪神地域に在住若しくは在勤の山崎高校同窓生相互の親睦と交流を図るとともに、母校の発展に寄与するため、「山崎高校同窓会阪神支部（仮称）」の設立に向け準備を進めてまいりました。

この度、設立総会を下記のとおり開催することとなりましたので、ご案内いたします。

お忙しいとは存じますが、特に地域にはこだわりませんので、お知り合いの同窓生の方をお誘いの上、多数の皆様方のご参加を心よりお待ち申し上げます。

なお、会場の準備がございますので、恐れ入りますが、ご出席いただける方については、下記連絡先までご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

日時 平成25年1月27日（日） 12時～14時

場所 ラッセホール

（最寄駅：地下鉄「県庁前駅」、JR・阪神「元町駅」）

神戸市中央区中下山手通4-10-8

TEL：078-291-1117

<http://www.lassehall.com>

会費 5,000円（飲食代、雑費）

※ ご出席いただける方は、12月31日までに次によりご連絡願います。

連絡先 神戸市北区鈴蘭台南町6-7-10 岡田泰介あて

Mail：taichan5051@iris.eonet.ne.jp

連絡方法 「メール」若しくは「はがき」

連絡内容 お名前、卒業年次、住所、電話番号

山崎高校同窓会阪神支部（仮称）
設立発起人会 事務局

花本秀生（S39卒） 鯖尻昌弘（S40卒）

小林俊明（S41卒） 中野景介（S44卒）

岡田泰介（S44卒） 衣笠達也（S53卒）

回生だより



〜元気ですごしています〜

理事会にて思う

第11回生 久保田正末

同級生の皆さん、先日、山崎高等学校同窓会理事会に出席いたしました。

歳のせいかな、もう理事を代わってもらう時なのかと自分で痛感いたしました。誰か替わっていただけないでしょうか。よろしくお願い致します。

埃まみれの青春

第15回生 大前 強

三年間、旧染河内から二人、神戸村から私を含め三人、旧神野村から五人が国道二十九号線に沿って自転車通学をした。まだ舗装されていない砂利と穴だらけの道を片道一時間以上かけ、ボロ自転車で、

埃まみれになって通学した。郡北部の生徒は啓明寮に入るか、バス通学の時代であった。不撓不屈の精神を身につけるのは勉強や知識、学歴ではない。汗、埃そして涙、「何くそ」という歯をくいしばる体験であるをつくづく思う。

半世紀

第15回生 大前弘司

私たち十五回生が高校生活を送ってから五十年の月日が流れました。

当時は携帯電話もなく、授業料は直接事務室で毎月納めていました。日常の移動は自転車かバスという生活が当たり前の時代でした。まさに映画「三丁目の夕日」の時代で、日本が「戦後」から「高度経済成長」の時代へ向かう時期で

した。それから半世紀：かつては想像もできなかった豊かで便利な時代になりました。しかし、最近の様々な状況を考えると「せまい日本、そんなに急いでどこへゆく」そんな言葉を再び強く思うようになりました。

持つべきものは同窓生

第16回生 太田幸四郎

昨年六十六歳で一宮から山崎に転居してきました。慣れない土地での生活に不安がありました。山崎の同級生や先輩の助けで山崎の生活をエンジョイしております。持つべきものは同窓生。感謝！感謝！

さて、還暦の同窓会から七年、六十五歳の同窓会から早や二年。その間、毎年二回のゴルフコンペと二回の世話人会を続けて親睦と結束を図りつつ、古希記念同窓会を楽しみに各々頑張っております。尚、本年二回目のゴルフコンペを十月二日に実施、世話人会は十二月二日と三日に京都で開催致します。

思い

第19回生 下村孝吉

五十歳になったばかりの時、ある名簿に年齢を記入しながら大きなショックを受けた。しかし、それから何年か過ぎ、早く六十と記入したくなった。それは、この歳迄、健康で生きて来れた事への感謝、慶びの念が生まれて来たからかも知れない。父が生きた年数までもう二十年は無いが、一緒に暮らしている九十四歳の母親、そして飼っている犬までもが元気であることに慶び感謝をしつつ、残りの人生、唯無駄に生きるだけで無く、何の為に誰の為に、この命を使っているかねばならぬのかとの思いが湧いてきた事は嬉しい事である。

山崎高校の役割

第21回生 前田寿雄

世の中のメンタル不全が取り沙汰されるようになって久しい。企業でもしかり。その原因究明と対策が意外と難しい。個々人の心の有りようは千差万別。思春期の環境と思い込みがその後メンタル強度を造り上げるものと思われる。悩みは放置しておくと思われ。悩みは整理整頓し、優先順位付け

ることが肝要である。思春期の環境と云えば山崎高校。我々の学んだ時代と建物も取り巻く環境も変化して当然である。ただ、いつの世にあってもメンタル強度がアップ出来る山崎高校であつて欲しい。

豊かに生きる

第22回生 西幹 博

この春、ついに定年を迎えた。週休三日の再就職、気分も新たにスタートしたが、ふとしたことから自宅の庭で踵の骨を折ってしまった。

山崎高校から始まった教員生活の三十八年間、大きな怪我や病気もなく無事に終えた矢先である。同窓会理事事に松葉杖で参加することを後悔した。

これからの人生どう生きるか、このことを機会に考えさせられた。健康が一番とは言うまでもない。目先の仕事に追われ、考えることすら先送りしてきたことを反省している。

人生下り坂、大いに結構、急な坂道もブレーキをかけ、ゆつくりと周りを見ながら楽しめば良い。特に二十二回生の皆さん、もう一度高校時代の仲間意識を思い出し、情報交換しながら、さらには交流

を深めてこころ豊かに暮らしましょうか。

還暦

第23回生 藤井哲郎

還暦を祝って二十年ぶりに今夏に同窓会を開くことになりました。地元在住の有志数名集まって、案内状を用意しました。クラスメート一人ひとりの住所を見ながら、アメリカに渡った人、亡くなられた方：四十数年の長い年月を感じました。

皆それぞれ第一線を退く年になり、肩書抜きで昔に戻って再会できるのではないかと期待しています。旧知の仲でありながら、新しい出会いがこれからの人生を彩ってくれることだろう。



我が高校時代の昨今

第24回生 井口 徹

母校の山崎高校を卒業し、生まれた故郷を離れて四十年の歳月が流れました。現在は地元の金融機関に勤務しておりますが、周囲にも沢山の山高同窓生がおり、時折高校時代の思い出話に花が咲く時があります。又、毎年職場へは新入生が入ってきますが、職場の中に高校時代の同級生の御子息が見られるようになり歳月の流れをしみじみと感じております。山高生の皆さんは今も素晴らしい環境で勉学にスポーツに活躍のことでしょうが、できれば沢山の書物にも接してください。私自身、読書に関して無為な高校時代に忸怩たる思いが強いのですが、読書が人生を豊かにしてくれることは間違いないと思います。素晴らしい本と出会って下さい。

五十代からの手習い

第28回生 小寺一成

現在五十代半ばですが、五十歳を超えてから始めた新しい趣味を紹介します。ジオラマ作りです。友達に誘われて鉄道模型走行会を見に行つて、作り込まれた街並み

を走る列車の写真を撮る楽しさを覚えたのがきっかけで、自分で鉄道模型ジオラマを作り始めました。「鉄道のない町 実栗の夢と希望をのせて」というテーマで『いろいろ夢鉄道』という楽しい空間を作っています。最初に約一年がかりで六畳のレイアウトを作り、現在は十二畳のレイアウトを作成中です。フル編成の新幹線が走り、空港も作ります。また見に来て下さいね。

写真展

第30回生 森脇圭吾

神戸在住の同級生が写真展を開催することがわかった。二十何年会っていないし、せつかくの機会にと思い、訪ねてみた。土曜の午後、私以外にも山高の同級生が何人か来ていた。後で三十年近く会っていない同級生も訪れ、しばし歓談の後、再会を約束し別れた。一週間後の土曜日、車を運転しているとバックミラーに見覚えのある顔が……。写真展の彼であつた。出会わなければ二十年。一度出会えば一週間。不思議な同級生の縁を感じる出来事となった。

恩師の言葉

第32回生 中津政敏

「学びて己の無学を知る それを学ぶと云う」高校時代の三年間担任をしてもらった松井仁先生から贈ってもらった私の好きな言葉です。五十歳を過ぎた今でも迷い悩んだ時には、分厚く仕上がったクラス卒業文集「佇立」を開いては、先生の文字の一つ一つがカタルシスとなって、学ぶことへの意欲をまた掻き立ててくれています。その「佇立」を持って、九月には二十数年ぶりに先生を囲んでのクラス会を開くこととなっています。少しは恩師にほめてもらえる自分になっているのだろうか…。

友、来たる。

第34回生 片山善晴

私は、家業を継ぎ、一宮で商売をしています。先日何十年ぶりの友人が、私をたずねて来てくれました。なつかしい顔に、高校時代に戻った様に話が弾みました。なつかしい友の来訪にひさしぶりに卒業アルバムを開き、若き日思い出しました。

本当の友とは、うれしい時には、共に喜びあい、困った時には、相

談にのつてくれ、助けてくれたり、時には、厳しい意見も言ってくれる。そんな友とめぐり逢えたことは、本当に有難いことだと思えます。若い時より、友の大切さを一層感じるようになりました。

自分にできる精一杯のこと

第43回生 白川みどり

山崎高校を卒業して早二十年以上が経ちました。今でも私にとつてかけがえのない思い出の詰まった三年間です。私はもうかれこれ二十年大阪に住んでいます。山崎高校を卒業後、薬学部に進学しその後は薬剤師として働いています。今、勤務しているのは療養型病棟と介護型病棟を中心に一〇〇床ほどのベッド数がある病院で、朝から帰るまで息つく間もないほど忙しく大変な毎日です。最初の頃は話し掛けても何の反応もないし、ただ一方的な服薬指導につまづきました。が今ではほんの少しの口元の動きや目の動きで話を聞いてお返事してくれていることにやりがいを感じるようになりました。訪問服薬指導に行った時はいつも喜んでいただき、また、医師に話せなかったことを話してくれたり、少しずつ信頼関係もできてきまし

た。高校時代、進路が決まらずなんとなく薦められて選んだ道ですが、今は先生方や周りの友達の温かい言葉に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも頑張りたいと思います。

夏

第47回生 松本守平

今年は長々と梅雨空が続き、気温も低かったので、このまま冷夏かと思っていました。が、梅雨明けからは一気に夏本番になりました。ね。この気温の変化には、さすがに体がついていけず、フラフラの毎日です。山崎高校夏のプールといえば、二十五メートル潜水の授業がありました。が、あれもキツかったです。二十五メートル泳ぎきった後はまさにフラフラでした。ね（笑）。当時は何の為にこんなことを!!とは思っていましたが今思い返せば、それはそれで楽しんでた気がします。なので今、高校現役の方も？がつく授業でもとりあえずやってみて下さい（笑）。

協力金のお願い

事務局より

＊「同窓会便り」は皆さまお一人おひとりの力で発行されています＊

毎年ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この「山崎高等学校同窓会便り」は母校や同窓生の近況をお知らせし、母校の発展と同窓生の御活躍の糧となりますように念じ、発行させていただいておりますが、その費用は皆様方の協力金で運営されています。出費多大の折とは存じ上げますが、引き続きお一人おひとりのご協力を是非お願いいたします。

歴史と実績ある部活動の数々。
毎号、運動部&文化部より1クラブずつご紹介
いたします。



活動の紹介

Club Activity

部活動紹介「体育部」

女子バレーボール部

顧問 西澤 直彦

青春をバレーに懸ける。

「近畿大会出場」を目指して日々の練習に励んでいます。

去る六月総体で、女子バレー部は「近畿大会出場」を目標に戦いました。今年のチームは久しぶりに近畿大会出場となった一昨年のチーム（六十二回生を中心）とは違い、小柄ですが気は強く正確なレシーブからのコンビバレーを信条とするチームでした。四回戦まで勝ち進み、近畿大会まであと一つのところで持ち味のコンビバレーを展開することなく敗退してしまいました。近畿大会を知っている最後の学年として期待されてきた三年生、重圧と戦いながら最

後まで諦めず、全力で大きなチームにも挑み続けてくれました。

今では三年生が引退し、二年生二名・一年生十三名の十五名で活動しています。二名の二年生がチームの柱となり、毎日の練習に汗と涙を流しています。お洒落や青春をしたい女子高校生がバレーに懸ける。何かを犠牲にしてまで追求める先は、負けから学ぶ悔しさとそれを乗り越え努力し続けて掴む勝利の味。それが女子バレー部の青春なのです。

ただ勝つこと・負けることだけが部活動の究極の目的ではない。そこで女子バレー部は努力ができる人間の集まったチームになることを目標にしています。努力には表の努力と裏の努力があります。表の努力は走ったり、サーブを打ったりトスを上げたりバレーが上達するための練習です。一方、裏の努力とは百パーセント、バレーの技術は向上しない努力です。大きな挨拶と返事、脱いだ靴を並べるなどバレーの技術には一切関係ない努力のことです。

人は目に見えないものをあまり信用しません。でも目に見えない

もの、その力を大事にしたいのです。見えるものは見えないものによつて支えられていると思います。しかも裏の努力には、技術は必要ありません。一念発起は誰でもする。実行・努力までならみんなする。そこでやめたらドングリの背比べで終わる。一歩抜き出るのは努力の上の辛抱という棒を立てる。この棒に花が咲くよう晶を求めていこうと思っています。子供は大人の言うことを聴くことは苦手です。しかし、子供は大人の真似をすることは得意なのです。私自身、気持ちと行動を引き締め、生徒と





一丸となって今まで以上に精進していききたいと思います。
最後になりましたが、たくさんの山高生たちが部活動に汗を流しています。形は違えど思いは一つ。今後とも山高高校をよろしく願います。

部活動紹介「文化部」

箏曲部

部長 薄木 優維

箏曲の深みある音色に魅せられて。

一つひとつ演奏の機会を大切にしながら、少しずつ広がる活動の場。

私たち箏曲部は、二年生七人、一年生二人の計九人で活動しています。部員のほとんどが初心者ですが、講師の西川かをり先生の御指導のもと、年二回のコンクールと文化発表会に向けて、日々練習に励んでいます。箏曲というと、難しとかしょこまった印象になりがちですが、みんなで一つのものを作り上げる楽しさもあります。またみんなが同じパートを演奏するのではなく、各パートに分かれて演奏することで、より深みのある箏の音色が響きます。



今年の文化発表会では、志田教頭先生に尺八で共演していただき、私たちのステージに華を添えていただきました。普段の琴だけの演奏も尺八が加わることで、また違った味のある演奏となりました。私たち自身、貴重な体験をさせていただき、心に残る文化発表会となりました。是非一度、文化発表会での箏曲部の演奏を聴きにきてほしいと思います。

昨年の十月には、「山高街の駅」で演奏させていただく機会もありました。未完成の演奏だった中、暖かい拍手をいただき、すごく嬉

しかったです。ついで十一月の兵庫県高等学校邦楽コンクールでは、II類の部で銀賞を頂きました。このように活動の場が広がり、私たちも気持ちが引き締まる思いです。

少人数ではありますが、これからもよりいっそう力を入れて熱心に練習に励んでいきますので、応援よろしく願います。



- (F) 卒業して早や22年やなあ。
 (N) 私らの交流もここから始まったもんな。
 (F) 久しぶりの高校、なんか緊張するな。
 (N) いろいろあったけど、体育祭前に中庭で創ったデコが一番の思い出かな。
 (F) 何日もかけて遅くまで頑張ったよな。出来あがった時の達成感は最高だった。
 (N) 一生懸命したことだから記憶に残ってるんやで。
 (F) さあ、私たちの思い出がいっぱい詰まった母校に行こう！！

今の山崎高校

みなさんも気になりませんか？
 ～久しぶりに訪れたい～

ある卒業生たちの訪問記

皆様もぜひ、
 懐かしい仲間と楽しかった一時を
 思い出してくださいね！



教訓！敬愛、英知、希望

新



- (N) 急にみんなに会いたくなってきたなあ。
 (F) どう？節目の年だし。同窓会やってみない？
 (N) それいいね☆。

エッ！
 液晶テレビに時刻割変更

音



カツカツ、
 今でも睡こえる
 白鬼の音

学



匂

ピッ！
 図書の本の出しは
 バーコード！



汗

地域



フットボール
 汗と涙を流した都立

涼



懐かしい匂い...

パシャ！
 飛び散る水しぶき！

平成24年度 離着任職員一覧（敬称略）

離任職員

菅生 安展	教頭	太子高校
春名 隆行	地歴・公民	佐用高校
原越 謙二	保健体育	姫路飾西高校
三木 澄代	家庭	退職
谷口 晴己	農業	退職
小林 長門	農業	農業高校
藪内 知実	養護	姫路聴覚特別支援学校
鳥越 敏照	農業	退職
道根壽美子	家庭	退職
井口加奈子	国語	伊和高校
増田 繁美	地歴・公民	西宮市立西宮東高校
後藤 紀之	理科	伊和高校
神崎 暁史	情報	芦屋高校
苅田まゆみ	事務	龍野北高校
前田三知代	事務	退職
清瀬 智子	事務	龍野北高校

着任職員

志田 守	教頭	高砂高校
寺田 文章	地歴・公民	佐用高校
山田 佳那	理科	新採用
梶浦 永人	保健体育	姫路飾西高校
田村 倫子	家庭	佐用高校
吉田 征司	情報	新採用
今井 洋	農業	上郡高校
長石 正愛	地歴・公民	山崎高校
北中 志麻	理科	播磨特別支援学校
菅井 太亮	農業	農業高校
妹尾 恵美	養護	新採用
原嶋 由佳	家庭	西脇高校
橋本 裕司	農業	農業高校
田中 弘美	事務	伊和高校
藤本 香織	事務	上郡高校
寺脇 正成	事務	新採用

平成23年度 卒業生の進路状況

国公立大学

岡山大学	3
鳥取大学	2
鳥根大学	1
山口大学	2
香川大学	1
徳島大学	2
兵庫県立大学	2
県立広島大学	1
鳥根県立大学	1
下関市立大	1
香川県立保健医療大学	1
高知工科大	1
宮崎公立大	1
合計	19

公立短大

津市立三重短期大学	1
倉敷市立短期大学	1
新見公立短期大学	2
鳥根県立大学短期大学部	2
合計	6

私立大学

京都産業大学	3
佛教大学	1
龍谷大学	3
大阪経済大学	2
大阪芸術大学	1
大阪工業大学	1
大阪体育大学	1
大阪電気通信大学	1
関西外国語大学	1
関西大学	2
近畿大学	11
桃山学院大学	2
阪南大学	2
関西学院大学	2
関西福祉大学	5
神戸学院大学	11
神戸女学院大学	1
神戸女子大学	4
姫路獨協大学	5
兵庫大学	2
兵庫医療大学	1
武庫川女子大学	1
天理大学	2
奈良大学	2
川崎医療福祉大学	3
他 合計	138

私立短大

東京農業大学短期大学	1
神戸女子短期大学	1
神戸常盤大学短期大学部	4
兵庫大学短期大学部	6
武庫川女子短期大学	1
さくよう音楽短期大学	1
他 合計	19

看護医療系専門学校

公立八鹿病院看護専門学校	4
姫路医療センター附属看護学校	3
姫路市医師会看護専門学校	2
姫路赤十字看護専門学校	2
兵庫県立柏原看護専門学校	1
岡山済生会看護専門学校	1
香里ヶ丘看護専門学校	1
順正高等看護専門学校	1
関西総合バリアンツ専門学校	2
西はりま医療専門学校	2
神戸医療福祉専門学校	2
神戸総合医療専門学校	1
ハーベスト医療福祉専門学校	5
他 合計	35

一般専門学校

京都府立林業大学校	2
トヨタ神戸自動車大学校	2
神戸ベルエール美容専門学校	3
大原簿記 / 神戸	4
姫路理容美容専門学校	3
日本調理製菓専門学校	4
姫路情報システム専門学校	6
他 合計	61

公務員

国家Ⅲ種（林業職）	1
刑務官	2
神戸市消防職	1
兵庫県警察官	3
他 合計	9

民間就職

株式会社一宮電機	2
協同組合兵庫木材センター	2
特別養護老人ホームやまさき白寿園	2
他 合計	40



住所異動のある方は

同封の振替用紙に貴方の住所等が記載されています。内容に変更がございましたら、用紙にお書き込みいただき、そのままFAXいただくか、お電話ください。用紙右のQRコードからも住所等の変更が可能です。

TEL 0120-66-7754(平日 9:00~16:00) FAX 0120-81-2299

お願いとご挨拶

本会は、皆様にご協力頂いております協力金により、「山崎高等学校同窓会便り」(現在までの名称)の発行ほか会員相互の親睦・交流事業、後輩諸君への支援事業などが実施されております。皆様方の温かく力強い支えにより、これらの事業・取り組みが安定的かつ継続的に運営されていることに、あらためて感謝申し上げます。今後とも、本会活動へのご支援並びにご指導ご鞭撻のほど、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

お便りや、感想をぜひお聞かせください。お待ちしております。

平成23年度

同窓会便り発行収支報告書

収入の部

新聞発行協力金 1,948,954 円

支出の部

印刷及び封入費用 1,746,480 円

送料 1,273,409 円

消費税 150,993 円

振込手数料 840 円

合計 3,171,722 円

※不足分は一般会計から補填

同窓会

祝！ホームページ開設

<http://www.yamako-dosokai.jp/>

facebook

ファンページも
あります！

編集後記

今年の夏は例年に比べても非常に暑く、ここ山崎でも軽くトラウマになりそうな程でした。しかし、のど元過ぎれば雨後の土曜日通り、季節はめぐって、いよいよ実りの秋！現在はお祭りのシーズンです。そんな中、編集打ち合わせが続けられました今回の「山崎高等学校同窓会だより」。いかがでしたでしょうか？

さて、この「山崎高等学校同窓会便り」は今号で記念すべき五十号という節目を迎えることができました。そこで、半世紀(！)という長きに渡って親しまれてきました、この「山崎高等学校同窓会便り」という名称をリニューアルさせていただきます。

少しお時間をいただいて、故郷の風景や山崎高等学校、一緒に過ごした仲間等に思いを馳せてみてください。ピタリとの名称が浮かんできませんか？あなたの感性あふれる名称をお待ちしています。

同封の要項をよく読んでいただきご応募ください。せっかくの機会です。皆さまのお申し込み、よろしく願います。

(編集部一同)